

「運動会におもうこと」

コリント人への第一の手紙第 12 章 20～26 節

女子聖学院中学校高等学校 体育科教諭 田中優子

昨日健康診断が終わり、ゴールデンウィークの後半が終わると先ず中間試験があります。これが終わるといよいよ6月21日の運動会に向かつての練習が始まります。高校1年の皆さんにとっては色を持つての初めての運動会ですし、高校3年生にとっては最後の運動会です。

女子聖学院の第一回運動会は、大正14年(1925)10月23日の校内運動会でした。全校生徒268名で行われ、種目は体操・徒競争・巾跳び・高跳び・リレー等が競われました。昭和5年(1930)は創立25周年記念として、11月3日に午前中はバレーやバスケットの学年別試合、午後はダンスや面白い競技が行われました。戦後の昭和23年(1948)には体育大会として、赤白に分かれて競技をしました。その後50周年に当たる昭和30年(1955)、10月15日に聖学院校庭で高3が赤、高2が黄、高1が青に分かれ、中学生は今と同じく縦割りに色が決められ競技が行われました。大野前校長先生はこの時高3で赤色を持ったと伺っています。以来57年間、3色で運動会が行われてきました。

体育館で運動会が行われるようになったのは昭和44年(1969)東京オリンピックの5年後、当時の器械体操競技場だった東京体育館を使用したのが始まりで、以来43年、体育館は変わっても、屋内で、3色で、というスタイルを守り続けています。そして、変わらない競技もあります。皆さんは高校生ですから、すでにこれらの競技を行ってきたと思います。中1のメディシンボール、中2の波のり、中3の3人縄跳びは今も変わっていません。この3種目を聞いて何か感じる人は居ますか？学校生活始めての中1は、「まず自分の与えられた力の限り頑張って次の人に繋げよう」、中2は「隣の人と一緒に走ろう」これには歩調を合わせることが必要ですね。中3では、「自分がわかって、隣の人のみならず周りを理解しよう、そして自分の、自分たちの力を出し切ろう」ということなのです。

また、女子聖学院の運動会は体育祭ではありません。祭りではないのです。運動会という行事を行うことによって、身体と心がともに育っていく会なのです。友達と手を繋ぎ、上級生の背中を追いかけ、憧れ、後輩を指導し、皆が育っていくのです。

生徒として運動会を経験した中で、私はバレー部でしたからパスが出来るのは当然でしたが、一緒にパスをした友人とは今でも付き合いが続いています。それは、「私が教えてあげたのよ」ではなく、いっしょに練習をして、成功して、抱き合った、嬉しかった仲間がそこにいた、ということからでした。

運動会の練習や準備・本番を通して一人ひとりが集団をつくり育て、集団が個を成長させていく、これが運動会だと思います。

女子聖学院の運動会では、足の速い人は足の遅い人に「おまえはいらない」とは言いません。技術の足りない人に「おまえはいらない」とも言いません。どのような人にも神様は見えていて下さり、いっしょ

に女子聖学院の体として集まるようにしてくださったから、そのようなことは言わないのです。

もちろん、競技は勝ち負けがはっきりします。優勝という目標に向かって努力をしますが、最後に神様が喜んでくださるのは、私たちのどのような姿でしょうか。

最後に、18年ほど前に卒業した生徒のことをお話します。彼女は中学1年入学時に、それまで大変いじめられてきたと聞いていました。それは、生まれつき左半分に麻痺があったためでした。女子聖学院の運動会にももちろん彼女も参加したわけですが、高校になって二人パスに挑戦することになりました。高1の時には始まりの合図とともに失敗し、高2でも5秒程度で失敗してしまいました。最後の運動会で、「私はこれを成功したい！」と彼女が思い、願い、それが周りに伝わりました。パスの相手は3年間ともバレー部のキャプテンでした。いよいよ本番です。彼女が登場し、合図がありました。麻痺がありますから両手を開いてパスすることはできません。彼女なりに工夫をしてヘディングをしったり肩に当てたりしてボールをつなげました。30秒間、対抗しているはずの3色ともがそのペアに注目し、みんなで応援しました。終了の笛が鳴って成功した時、体育館にいる皆が自分のことのように喜び、感激の涙でいっぱいになりました。私は、これこそ女子聖学院の運動会だと思うのです。後から聞いた話ですが、彼女は毎年運動会の3か月前から家族と秘密練習を傷だらけになってやっていたそうです。

一人ひとりの努力、与えられた力の限り頑張ること、仲間を信じること、これが出来るのは女子聖学院の運動会ならではのと思います。

女子聖学院をつくられた神様に感謝して運動会の時を迎えたいと思います。

お祈りします。

天の父なる神様。

学校の生活を始めるに当たり、まず神様を賛美することが出来ましたことを感謝します。健康診断が終わり、これから迎える中間試験や運動会の準備が始まります。神様が建てられたこの女子聖学院に連なる私たちは、神様の身体の一部として、誰もが必要とされ生かされていることを信じますから、どうぞ私たちを用いてください。

今日、この日を感謝して、このお祈りを主イエスキリストの御名により御前にお捧します。

アーメン

2012年5月2日 女子聖学院高等学校 チャペル礼拝